

令和6年度生命(いのち)の安全教育 報告書

園名・学校名 諫早市立大草小学校

実施日

令和 6年 9 月 12日(木) 9 :00 ~ 9 : 45 (45 分) 2年生
 令和 6年 9 月 13日(金) 14 :30 ~15 :15 (45 分) 1年生

場 所

各教室

講 師

役職: 養護教諭

形 態

・授業(教科: 学活) ・講話
 ・職員研修等(職員対象) ・その他()

参加者

幼児・ <u>児童生徒</u>	園・学校職員	保護者	その他
学年(2年5人、 1年6人)	(6)人	(6)人	()人

テーマ

みんなのからだは、とても大事だね

内 容

内容(具体的に)

①みんなのからだをつくってみよう

男子から一人、女子から一人、模造紙に仰向けになって、体の輪郭を他の児童がとり、顔のパーツや髪の毛などを書き込んで、体の学習をする等身大人形を作成した。模造紙に書いた人形には、児童に名前をつけさせて、親しみを持って学習に臨めるようにした。

②からだの名前をおぼえよう

男女ともに共通する体のパーツの名札を、考えながら①で作った人形に置いた。次に、男女で違う外性器について学習した。ここでは、赤ちゃん人形を用いて、性器の洗い方なども学習した。
 また、体にはプライベートゾーンというとても大事なところがあることを絵本を用いて学習した。

③ふれあいサイコロゲームをやってみよう

体のふれあいは、プライベートゾーンだけでなく、人によって感じ方が違う。自分にとって心地いいふれあいはどんなものか、相手はそれをどう感じるのか、自分と相手では感じ方が違うという事を知った。また、そのような場合の断り方についても学んだ。
 (ゲームの概要)サイコロに書いてある、①ハイタッチ②肩たたき③握手・・・など、出た目の「ふれあい」をペアで行う。対話の形として、「〇〇してもいいですか」「いいよ」「〇〇は嫌だけど、〇〇ならいいよ」などを示し、そのやりとりを行うことを通して、ふれあいの方法を学んだ。

<成果や幼児・児童生徒の行動変容等>

自分たちの体に近い等身大人形を作成したことで、その人形たちに親しみを持ちながら学習を進めることができた。授業後も保健指導等の場面で、その人たちと学習するたびにとても嬉しそうな表情をし、より関心も深くなっているように感じる。

その結果、自分の体も大事、他の人の体も大事という事を意識するようになった。

ふれあいサイコロゲームをすることで、ふれあいは楽しいと思えたようで、授業後も昼休みなどを使って、一緒に取り組む機会があった。自分が好きなふれあいはより楽しみながら、苦手なふれあいは断わり方をより相手に伝わるようにしながら練習する姿が見られた。

<今後の課題と自校(園)の取組等>

1回だけでは、忘れてしまうので、継続した指導が必要と感じる。

児童の中には、ふれあいの仕方が、密着しすぎる者もいるので、相手の立場になって考えるという意味も含めて、繰り返しと継続性のある指導が必要だと感じる。

<当日の様子> * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。

